

# 美しさに足を止め、節度を知る



## 和の美 時の想い

by wamiles

何の疑問も抱かずにきたが、「躊躇」をツツジと読むとは不思議である。足偏の漢字が2つ並び、植物からはほど遠いイメージなのに、なぜツツジと読むのかー。調べると、それなりの由来があった。

「広辞苑」などによると、躊躇を「てきちょく」と読めば「足踏みすること」「ためらうこと」「躊躇」といった意味になる。それをツツジとも呼ぶようになったのは、その昔、中国でトウレンゲツツジ（唐蓮華躊躇）を「羊躊躇」と記したことにはじまるという。毒のあるレンゲツツジの葉を食べた羊が躊躇して死んだから、あるいは、毒があることを知る羊がレンゲツツジの前で躊躇し前に進まなくなつたから、など説はいろいろ。

日本では「羊」を付けず「躊躇」だけをツツジにあてた。花の美しさに、見る人が足をとめるから、とのしゃれた解釈があるそうだ。

東京の根津神社（文京区）では「文京つつじまつり」が5月5日まで開かれ、約100種、3000株ものツツジが赤、白、ピンク、紫と艶やかな花を次々に咲かせている。どの花も美しく、つい見入ってしまう。外国人観光客も多く、立ち止まっては写真に収めていた。なるほど、美しいツツジの前ではみな「躊躇」する。そう解した昔の日本人のクールなセンスに脱帽。ツツジを楽しみ、名物の甘酒をいただけば、また格別である。

ツツジの名所は全国各地にあり、「つつじが丘」といった地名も多い。都道府県の花として栃木、群馬、静岡、長崎の4県が制定。仲間のシャクナゲを県の花とする福島、滋賀を合わせれば6県にのぼる。全国の市町村もシンボルにしており、その数はおよそ200とされ、2位「菊」の2倍以上というから、ツツジは日本を代表する花の一つといえる。

花言葉も気になる。赤いツツジは「恋の喜び」、白いツツジなら「初恋」。これだけなら胸キュンの印象だが、ツツジ全般となると「節度」や「慎み」に様変わり。西洋ではツツジ属、アザレアの花言葉を「節制、禁酒（temperance）」や「もろさ、はかなさ（fragility）」などとしている。洋の東西を問わずツツジに「節度」「節制」といった花言葉をあてていることにも興味をひかれる。桜の後を追うようにツツジは咲いていく。桜を愛でながらメートルを上げた者に、そろそろ「節制」せよとツツジが警告しているかのようでもあるが、美しい花のリレーが続く日本に生まれたことに喜びを感じる。

こんな美しい季節に、日本海周辺はきな臭くなってきた。かの地に「躊躇」<sup>てきちょく</sup>にあたる言葉はないのか、ツツジが咲くなら、花言葉をかみしめてほしいものだ。

大出一博（おおいで・かずひろ）  
ファッションプロデューサー

1967年SUNデザイン研究所を設立。国内外の有名デザイナーのショーワーを始め、新聞社、テレビ局、地方自治体、鎌倉が関係するファッションイベントや日本の伝統美を伝承するための着物ショーのプロデュースを手掛ける。また数々のチャリティーイベントをプロデュースし、ファッション界へ浸透させる。心を学び、五感を育てることを目的とした『葉山文化塾』を賛同者とともに96年に開塾。  
仕事のかたわら撮り続けた写真は写真集として多数出版されている。

写 真：大出一博  
文 文：遠藤一夫  
モ デ ル：清末奈津江  
ヘ ア：air  
メイク：ワミレスコスメティックス  
ス タ イ リ 料：ユキコ・グレン  
撮 影 場 所：神奈川県葉山町  
着 物：小紋（鈴乃屋 銀座店）  
帯 帯：名古屋帯（鈴乃屋 銀座店）